

# 自彊前進

NO. 14 平成28年12月13日(火)  
新潟大学教育学部附属新潟中学校 学校だより

※ 自彊前進…自ら努め励み、前に進むこと(校歌3番の文言から)

## 期待

副校長 津野 庄一郎

先日の選挙によって皆さんから選ばれた生徒会委員長の野澤幹太さんをはじめ、生徒会役員の皆さん一人一人に任命書をお渡しいたしました。よろしくお願いいたします。

今回の役員選挙は、それを支える山田諒太郎委員長をはじめとする選挙管理委員の堅実な運営もあり、適切に進められました。選挙運動も、新聞部長の選出に時間こそかかりましたが活発に行われ、どの候補者も、附属中の課題をしっかりととらえ、憲章の「自由」・「信頼関係」・「精一杯の努力」の3本柱を踏まえ、具体的な取組を公約に掲げ、よりよい附中にしたいという熱い思いがよく伝わりました。また、候補者を支えた責任者や2年生を中心とした学級の仲間のサポートも尊いものだと思います。候補者がどれだけ励まされたかわかりません。選挙の結果、望み通り当選した新役員の皆さんもちろんよくやりましたが、勇気をもって立候補し、皆さんの役に立ちたいと決意したけれども、残念ながら選ばれなかった人たちの熱意も見事だったと思います。選挙は終わりましたので、これからは会員全員で新しい役員を支え、この附中の生徒会活動を盛り上げていってください。

さて、立会演説会では、旧役員から立候補者一人一人に対して、代表質問が行われました。さすが3年生という、本質に迫る厳しい質問ばかりでした。皆さんはその受け答えをどのように聴いていたのでしょうか。「附中の憲章をどのようにとらえているのか」「今の附中の課題は何か」「公立校でいう生徒会長と附中の生徒会委員長の違いは何か」など、その一つ一つを我がこととして受け止めて、考えていたとしたら、私はあなたを附中生徒会の主権者であることを認めます。かのアメリカのジョン・F・ケネディ大統領は1961年の就任演説で、「国があなたのために何をしてくれるのかを問うのではなく、あなたが国のために何を成すことができるのかを問うて欲しい。」と呼びかけています。つまり、アメリカという自由の国をよりよくするのは、一握りの為政者ではなく、あなた自身の情熱と努力であると訴えたのです。このことは、来年70周年を迎える附属中学校、そして生徒会を、生生発展させるか否かは、「自主独立、協同」の姿を求めて進む、皆さん一人一人の自覚と精一杯の努力にかかっていると置き換えられるでしょう。

新しい生徒会の役員の皆さんには、附属のよき伝統を確かに引き継ぐと共に、やりたいこと、やるべきことに果敢に挑戦してほしいと期待しています。会員の皆さんが全国をリードするこの附属新潟中の核となることを切に願って、任命式のあいさつとします。

## 生徒会役員選挙特集

### ○立会演説会

12月6日、平成29年度生徒会役員選挙立会演説会が行われました。当校は生徒会委員長、生徒会副委員長、新聞部長、応援団長を選挙で決定します。各候補者は、来年度の生徒会のことを真剣に考えながら、自身の公約を中心に力強く演説しました。



### ○投票

12月7日、平成29年度生徒会役員選挙の投票が行われました。厳粛な雰囲気の中で、生徒一人一人が1票を投じました。また、演説会場、投票会場の設営、開票作業に至るまで選挙管理委員会の生徒たちが丁寧に準備し、運営しました。



### ○新生徒会役員

生徒会委員長	野澤 幹太 (2-1)	新聞部長	河合瞬太郎 (2-3)
生徒会副委員長	菊地 鼓子 (2-2)	応援団長	本間 兼信 (2-3)